

31048 慢性期看護実習（精神） Chronic Patient Nursing Practicum (Menta I)		3 年次～ 集中 2 単位	
担当者	坂江 千寿子／栗原 加代／池内 彰子	履修可能学科	N 必
		関 連 資 格	看護（N）
サブタイトル	心病みつづ生きる人とともに歩む看護		
授業内容 ・ ねらい	精神障がい者とその家族を対象に、疾病の回復、社会復帰および状態安定の維持に必要な看護の基礎的知識・技術・態度を習得する。保健医療福祉チームの一員としての役割を認識し、自己の倫理観を育成する。 教育目標 1. 患者―看護師関係の成立過程を理解し、治療的コミュニケーションの基礎的能力を養う。 2. 回復期・慢性期にある対象者を受け持ち、精神障害によって生じるセルフケアレベルの低下および生活上の困難に視点をあてて、対象に応じた看護の展開とケアの実際を学ぶ。 3. 社会復帰に関する諸活動に参加して、現在の精神障害者の置かれている立場を理解し、保健医療福祉チームの一員として、果たすべき役割と機能を学ぶ。 4. 看護場面で生じる倫理的な問題を患者中心の視点から認識し、自己の倫理観を育成する。		
授業計画	<1週目> 治療プログラムに参加し働きかけの実際を学びながら、自己のコミュニケーション傾向を分析する。受け持ち患者の情報収集、アセスメント、全体像、看護問題の抽出を行う。 <2週目> 看護問題を抽出し具体策にそって実施し、結果の評価、計画の修正について検討する。 健康面を促進するレクリエーションの企画・実施、アサーションを意識した看護場面の倫理的問題の検討、ディケア実習等を計画的に実施する。 <実習記録> 1. 事前学習および終了後課題レポート 2. 各自で考えた本実習の目標 3. 受け持ち患者の看護過程展開に関する記録 4. 各日の実習記録 5. プロセスレコード 6. レクリエーション企画・実施記録・評価表 7. 看護場面における倫理的課題の抽出用紙		
教科書 参考書	参) 山本勝則他編『精神看護技術 -その手順と根拠- 第3版』（メジカルフレンド社）2008. 水島裕編 『今日の治療薬 解説と便覧』（南江堂）2008. その他、必要に応じて教員が提示する		
評価方法	評価は実習内容80点、課題レポート20点とする。これに事前学習、実習態度、記録内容を加味して評価を行う。		
事前準備学習 履修条件等	出席状況を重視します。事前学習レポートや各自で具体的に本実習の目標を考えることなど、実習には自主性が求められます。対象者との距離に配慮しながら、自分自身のコミュニケーション技術や対人関係の傾向を知ることが心がけてください。		